

授業改善書

科目名	日本語学（各論）
担当者	高山林太郎

授業の概要

日本語学（各論）では、慣れ親しんだ現代日本語を中心に、古語や方言なども題材としつつ、それらを科学的・客観的な視点から分析する普遍的な言語学の知識・思考方法を学ぶことを目的とする。文学を学び論ずるうえでも、言語学の構造主義的なものの考え方は重要である。社会言語学、比較言語学（文献および方言）、対照言語学について講義する。

授業の問題点

授業外学習の点が少ないが、授業内で課題に取り組むようにしていた為と考えられる。質問や発言の点が少ないが、確かに学生は受身の態度で出席していたと記憶している。ノートの点がやや少なめだが、毎回メモ用紙にノートを取らせて回収し出席を取っているため、多くの学生がノートを取っていると考えられる。

学生の授業満足度

授業の内容に得るところがあったか、および全体的に振り返って授業に満足できたかについて、いずれも5点満点の4点強だったので、概ね上手くできたのではないかと考えている。「授業内容について」はおおむね4点以上、「授業方法について」は4点以上であり、全体的に高評価だったのではないかと考えている。

授業改善の課題と方策

講義を長くやっても単調になってしまうが、課題を長くやろうとしても一部の学生の集中力が続かず脱落者が出てしまい、課題を長くやることもできないと考えられるので、講義と課題の適切なバランスを考えることが重要になると感じており、その点に注意しながら実施するようにした。

その他

特になし。